

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校連絡会 情報共有シート

1. 基本情報

構想名	日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築
大学名	新潟大学
担当部署	学務部留学交流推進課
コンタクト先	Email: soumukokusai@adm.niigata-u.ac.jp Tel: 025-262-6935

※コンタクト先は、本情報共有シート等において記載された内容等に係る情報交換・問い合わせ等のため、採択大学間で連絡を取り合う際のコンタクト先（メール、TEL等）を記載ください。

2. プロジェクト概要

貴学が取り組まれているプロジェクトの概要についてご記入ください。

<p>平成26年度に採択された本事業は、日露の架け橋となって両国の医療を発展させ、さらには世界の医学の進歩に資する「グローバル医療人」を育成することを目的とする。主に極東地域の医科大学を相手校とする。交流する学部学生・大学院生には、先端的な知識や技術に加えて、過疎地などで必要とされる地域医療を習得させる。また、多国籍の患者や医科学者と協調するための俯瞰的な視点を身につけさせる。プログラムは、医学部生を対象とした①「夏期医学生交流プログラム（双方向10日間）」および②「医学研究実習プログラム（派遣2ヶ月）」、そして大学院生を対象とした③「ダブルディグリープログラム（DDP）（受入）」と④「ダブルディグリーを伴わないレギュラー-PhDプログラム（RPP）（双方向）」の4つを設定している。</p> <p>本事業は、医学部内に設置する「統括センター」が運営・評価・管理を指揮する。教育の「質の保証」のため、本学・国外の各運営委員会、それらから構成される国際連携運営委員会と本学事務局が協働している。また、派遣・受入学生のために、事前のガイダンス、宿舍の確保、母国語での学習・生活支援など、万全のサポート体制を備えている。その他に、帰国後の交流やキャリアパスも積極的に支援している。</p> <p>以上により交流のノウハウや信頼関係を積み上げて、それらを他の学部へ波及させるように努めている。本事業により日露間の「人材の循環」を加速させることで、我が国の医療のみならず産業の発展に貢献していくことを目指している。</p>
--

3. プロジェクトへの取組状況

下記5点を中心に貴学の取組状況をご記入ください。

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	シンポジウムやWS・FDの機会には、できるだけ関係教職員が直接会合するようにしており、プログラム内容や医学教育について協議している。また、常時、統括センターを通じて密に日露間で連絡を取り合い、情報共有や意見交換を行っている。その他、研究交流を介して日露共同研究プロジェクトを提案し、教員の研究共有意識を高めることで、大学院・教員間の交流発展へとつなげる工夫も行っている。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<ul style="list-style-type: none"> ・学年歴、カリキュラムについて 医学生交流のうち、①夏期医学生交流プログラム（双方向・1単位）と②医学研究実習プログラム（派遣・7単位）を実施している。①は夏期休暇を利用して約10日間の研修を行う。②は医学科の必須科目として設置されている2カ月間の基礎医学の研究であり、本学はこれを海外の機関にて履修することを奨励している。そのため、医学生レベルの交流には学年歴やカリキュラムには支障がない。 また、大学院生交流でも、④レギュラー-PhDプログラムでは学生個人の希望に応じて研修時期や期間を調整するなど学年歴やカリキュラムに支障がないよう工夫している。 ・学位認定、単位互換について ③ダブルディグリープログラム（受入）については、選抜、単位の互換・認定、成績評価・学位授与を行う体制を整えた。学位最終判定の場である公聴会には、ロシア側の運営委員会もネット回線で参加し、可否判定に関与することに決した。単位互換は現在ダブルディグリープログラムでのみ行っており、ロシア側大学で取得したうち、10単位以下を互換する。 ・単位認定、成績評価について ①ホスト側の指導教員が、実習態度と最終的に発表される成果報告会または指導教員からのレポートや試験の結果を合わせ、A～Eの5段階で相対評価する。②修了後に英文の成果報告書を提出させ、その内容を査定した。①②を合わせてホスト側教員が学生の成果を総合再評価し、D以上に修了証書を授与、相当分の単位を与えた。③医学研究実習ではさらに帰国後、学生と教員に対しての英語によるポスター発表を課し、相対評価でD以上の学生に7単位を与えている。④RPPプログラムでは受入は最大1年/10単位未満（45分×150回）、派遣は2週間-3ヶ月/6単位未満（45分×90回）として、科目を再調整、単位の取得要件を定めている。
プログラムの実施における特筆すべき成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日露の医学・医療格差により日本人学生や教員のモチベーションが弱いという課題があったが、共同研究や大学院交流を介して、研究が促進する兆しがみられるようになった。 ・多層的なプログラムを整備したことで、過去に本学で学んだロシア人医学生が、進学後に大学院プログラムに参加したり、夏期交流を体験したロシア人学生が、本学の大学院へ入学するという事例がみられるなど、人材の循環が行われつつある。
危機管理への対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事前支援・オリエンテーション — 統括センターが、渡航する本学学生全員に、コースの説明・ビザ申請支援・十分な安全情報の提供などを実施。出発前の情報収集やたびレジなどの登録など指導を徹底している。また、専門家を招いての危機管理セミナーを複数回開催している。 ・安全管理 — 渡航後は、学生と現地校教員の双方から「在籍確認書」を書面で提出してもらい、安全確認を徹底。渡航中にも統括センター員がメールや電話で常時相談を受け付けている。 ・日露緊急連絡網・24時間体制でのサポート — 相手大学と本学の教員、統括センターで「日露緊急連絡網」を構築し、24時間体制で渡航中の学生支援を可能とした。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	・新潟県内の民間企業・銀行などから構成される地域医療コンソーシアムを形成し、県・市など行政からも支援や協力を求める体制の構築を進めているところである。

4. プラットフォーム構築事業への要望等

本事業を推進するにあたり、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

--